

競争的な水素サプライチェーン構築に向けた技術開発事業／総合調査研究／  
水素ステーションの自立化に向けたコスト低減状況に係る調査

団体名：株式会社日本総合研究所

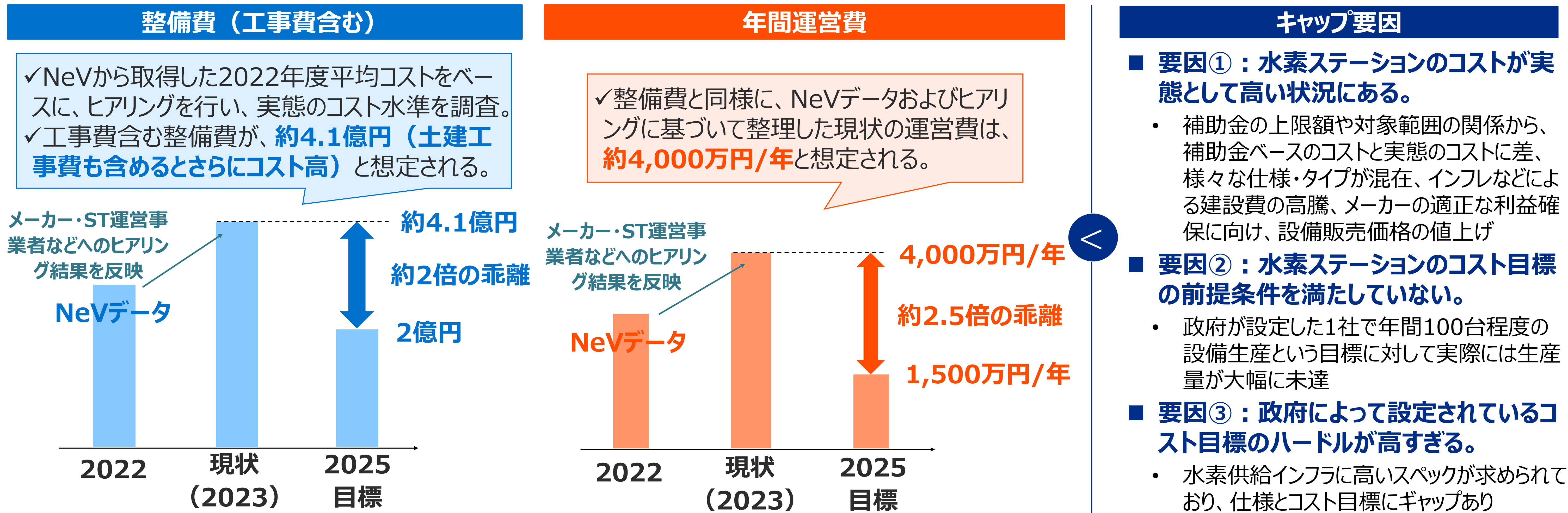
発表日：2025年7月16日

■ 調査の概要

- 我が国では燃料電池自動車（以下、FCV）と水素ステーションの普及および自立化に向け、「超高压水素インフラ本格普及技術研究開発事業」などの事業を通じて、水素ステーションのコスト低減に関して取り組んできた。本調査では、同事業で得られた水素ステーションに関する研究開発成果のコスト低減効果を検証し、現状及び将来的な水素ステーションコストの調査・分析を行った（乗用車向けの水素ステーションを対象として調査）。
- 調査を通じ水素ステーションの普及および自立化に向け、今後重点的に取り組むべき研究開発領域を明らかにした。それに加えて、商用車向けの水素ステーションを含めて自立化に向けた提言も行った。

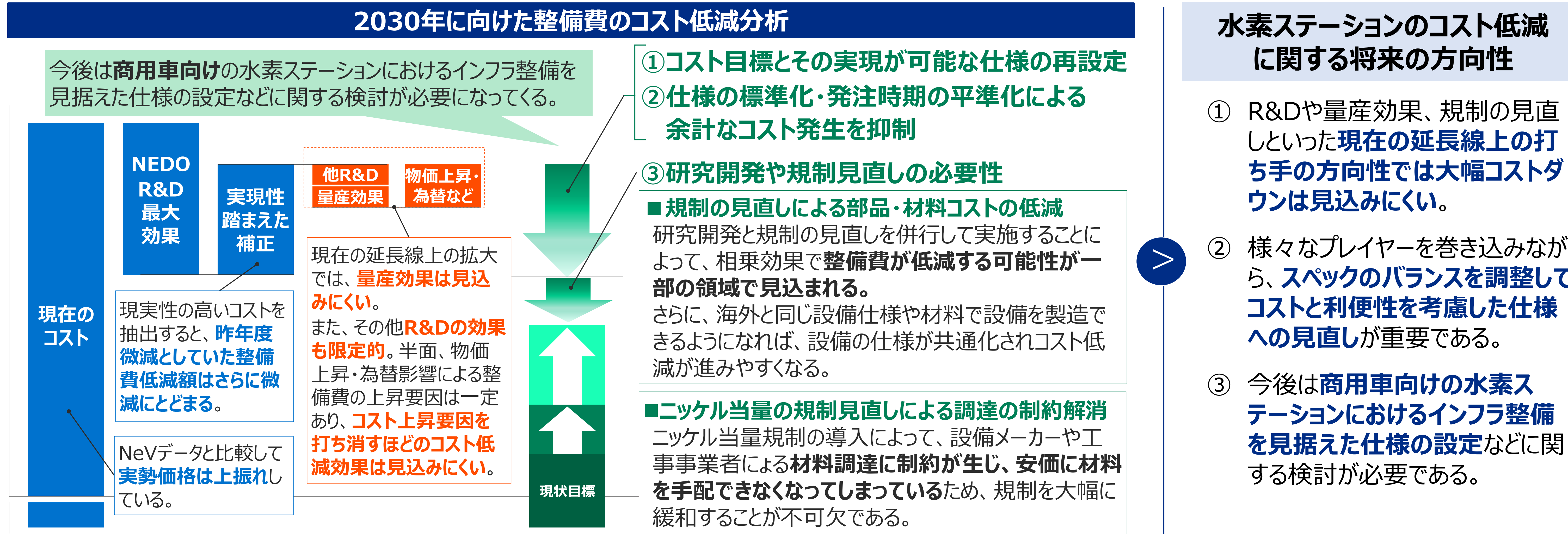
■ 調査の内容・成果①：水素ステーションの現状コストと政府によるコスト目標とのギャップ要因

- 次世代自動車振興センター（以下、NeV）から取得した2022年度の水素ステーション平均コストを基に、メーカー・ST運営事業者などにヒアリングを行うことで水素ステーションのコスト実態を把握した。その上で、2023年度の現状コストと政府による2025年度のコスト目標と比較分析を行った。



■ 調査の内容・成果②：2030年に向けた水素ステーションのコスト低減評価・分析

- 「超高压水素インフラ本格普及技術開発事業」における研究開発コスト成果の検証に加えて、その他コスト増減に影響を与える要素について検討を行い、2030年における水素ステーションのコスト低減評価・分析を行った。



■ 今後の見通しについて：水素ステーションの自立化に向けた検討事項の整理

- 調査内容を基に、水素ステーションの自立化に向けた検討事項を主に7点挙げた。抽出したこれらの主要な論点を踏まえ、商用車を軸にFCVの普及戦略と水素ステーションの自立化に向けた論理を検討し直すことが、今後水素ステーションの普及および自立化に向けた要諦となってくる。

調査を通じて整理した水素ステーションの自立化に向けた主な検討事項

検討①	水素ステーションの発注仕様見直し	検討④	水素販売差益を確保できるようなあり方
検討②	水素ステーション仕様の標準化、発注時期の平準化	検討⑤	今後に向けた商用車向け水素ステーションの仕様など
検討③	水素ステーションの政府によるコスト目標の見直し (政府の計画や戦略、目標を定期的に見直すサイクルの検討、情報の収集・分析も含めて)	検討⑥	水素ステーションで低炭素水素利用を促進する方策
		検討⑦	今後の展開に向けた構築すべき水素流通網のビジョン・戦略